

幼児期に死亡している。)

前田：追跡調査を実施するに当たり、可能な限り客観的な免疫学的調査を行うための条件を検討策定した。その結果用いることとした調査表は別添の如くである。

畠山：岩手県下2町における調査成績を中間期にとりまとめたところ、母乳栄養児の上下気道炎の罹患率が混合ないし人工栄養群に比して低いことが証明された。下痢の罹患率も低く、受療日数も短かかった。

高野：沖縄県八重山群島における母乳栄養の実態調査を実施した。母親で職業をもつものが29%あったためか、生後7日以内の母乳栄養児は39%に止っていたが、安易に人工栄養にうつっていることが知られた。母乳栄養を推進するためには、母の条件、地域の特性を考慮して指導する必要がある。

南部：育児についてのアンケート調査を実施したところ、乳汁のみ具合を非常に心配しているほか、育児の不安がつよい傾向がうかがわれた。

橋本：High Risk Pregnant から生まれる High Risk Infant を完全母乳栄養でそだてる試みを救急産科において実施したが、209例中205例(98.1%)について成功した。残る4例は、母親の心臓病、結核、精神病、分泌不良(巨大児)であった。

また母乳栄養を推進している地域を調査したところ、非常に低い死亡率であった。またこの地域では遅延性黄疸児の頻度は高いようであった。

栄養法別にみた乳児の罹患状況の比較

班 員 平山宗宏
(東京大学母子保健)
調査協力者 斉藤 実

調査の目的：

栄養法による乳児期の疾病罹患率に差があるかどうかを知るために調査を実施した。

調査の方法：

全国約30の大中都市における育児教室に際しアンケート調査を依頼し、母子衛生研究会を通じて回収集計した。

栄養法は産科、産院の退院時の状況により分類し、月齢3月までの罹患状況、月齢4月以降の罹患状況の差を比較した。

調査成績：

表に要約して示したごとくである。3ヶ月までの状況は母乳211、混合483、人工226の計920

例についてであり、4ヶ月以降は、母乳173、混合411、人工261、計844例についてのものである。

その結果、生後3ヶ月までについてみると母乳栄養児は人工栄養児に比してかぜ（とくに熱の出ないかぜ）と下痢の罹患率が低く、母乳栄養児を1とした時、熱の出ないかぜが混合栄養4.7、人工栄養4.9、下痢は夫々2.3、2.0であった。

このほかの疾患としては、便秘、湿疹または皮膚疾患においては罹患率の差をみとめなかった。また生後4ヶ月以降については、このような栄養方法による罹患率の差はみとめられなかった。

表 退院時栄養法別にみた乳児の罹患状況

	退院時栄養法	調査例数	罹患あり(%) 母乳栄養を1 とした時の比率	罹患の内訳(重複あり)			
				熱のでた かぜ	熱のない かぜ	下痢	その他
月齢三ヶ月まで	母乳	211	19.0	7.6	6.2	2.4	3.3
			1	1	1	1	1
	混合	483	29.2	6.6	13.5	5.4	4.6
			1.5	0.9	4.7	2.3	1.4
	人工	226	30.1	7.5	14.6	4.9	7.5
			1.6	1.0	4.9	2.0	2.3
月齢四ヶ月まで	母乳	173	47.3	21.4	19.1	6.9	7.5
			1	1	1	1	1
	混合	411	55.0	24.8	20.4	10.2	11.4
			1.2	1.2	1.1	1.5	1.5
	人工	261	60.9	24.5	30.7	13.4	11.9
			1.3	1.1	1.6	1.9	1.6

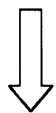
一方同じデーターを用いて環境要因、すなわち母親の年齢、居住地域、住居、父の職業、母親学級への出席、保健指導の有無、について罹患傾向との間に有意差検定を行ったところ、有意差が認められたのは、以下の二項目であった。

住居の状況： 借家、アパート、公団住宅、持家の各群の順に罹患傾向が低い。

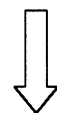
母親の学歴： 中学、高校、短大、大学の順に罹患傾向が低い。

このことは育児の環境が栄養方法以外に乳児の罹患率に影響を与えることを示しており、栄養法と罹患率との関係を調べる際には、上記の状況を一致させて比較する必要がある。

しかしながら栄養方法と罹患傾向、とくにかぜ症候群との関係はきわめて興味ふかいので、疫学的に十分評価できる調査を広域な規模で実施すること、および母乳中の感染阻止因子を追求することを行なう必要があり、その成績を通じて母乳栄養の意義を科学的に評価したいと考える。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



調査の目的:

栄養法による乳児期の疾病罹患率に差があるかどうかを知るために調査を実施した。

調査の方法:

全国約 30 の大中都市における育児教室に際しアンケート調査を依頼し, 母子衛生研究会を通じて回収集計した。

栄養法は産料, 産院の退院時の状況により分類し, 月齢 3 月までの罹患状況, 月齢 4 月以降の罹患状況の差を比較した。